参議院選挙に 平和とくらし守るために 思いを託そう

安倍政権が発足してから6年半。改憲に突き進もうとする自民・公明・維新などは7月の参議院選挙で3分の2の議席を獲得し、この秋にも国会で改憲発議を行う狙いです。今回の参議院選挙では、野党の議席を大きく伸ばすことが辺野古新基地建設や消費税増税、原発推進を止める大きな力となります。民医連は平和と社会保障の充実をめざし地域に根ざして活動してきました。すべての職員、友の会のみなさんが思いをひとつに、願いを込めて投票しましょう。

幼少期に戦争を体験、二度と「戦争する国にしない」との思いを

健康友の会みみはら大仙西支部　世話人　長田　平さん

小学1年の頃に日中戦争、国民学校となって5年生の時に太平洋戦争が開戦。旧制中学3年生のときに終戦となり、幼少の頃を戦時中に過ごしました。小学生の頃に近所の人が召集され、その出征を見送った奥さんが家の裏口で悲しみ泣いているのを見たり、旧制中学校の時に戦死者の英霊の出迎えに南海本線旧堺駅前に再々出動して捧げ銃*をし、「欲しがりません勝つまでは」と軍隊優先で国民は食糧難でひもじい思いをしました。

戦後間もなく2度と戦争をしないとの現憲法が制定され平和が守られてきましたが、安倍首相は憲法9条に自衛隊の存在を書き込み「戦争する国づくり」に躍起になっています。私は、戦争を体験した者として平和憲法を改悪させてはならない、との思いで「安倍9条改憲NO！3000万署名」の協力を呼びかけています。今回の参議院選挙では憲法9条を守り、戦争に反対する政党、候補者を選ぶことが大切だと思っています。

＊捧げ銃（ささげつつ）　銃を携行する要員による敬礼の一種。

「消費税増税」に反対する候補者を応援したい

ケアマネージャー　平尾都至子さん

ケアマネージャーは、利用者さんの生活を細部まで把握し支援する仕事です。

私が担当していた80歳代のAさんは、消費税が5％の時は、食費を一日千円と決め、少ない年金でやりくりしながら生活をされていました。若いころから必死に生きてこられ、自分のことを顧みる余裕は少しもありませんでした。おしゃれなどする余裕はなく、楽しみは月に1回の友人との食事会でした。ところが、消費税が8％になってからは、どうやりくりしても一日千円で食費を抑えることができず、楽しみにしていた食事会に参加できなくなりました。心配した知人の強い勧めで、やっと生活保護を申請されたそうです。

私は、そのお話を聞くまで「消費税の重み」を少しも理解していませんでした。ぎりぎりの生活をしている方にとって、消費税10％がどれほど大変な負担になるのかを実感しました。私は、今回の選挙で、消費税増税反対の候補者に投票したいと思っています。

理事会報告

5月度理事会（概要）

5月30日（木）午後6時から理事22名、監事3名の出席で、第19回理事会が開催されました。

理事長開会挨拶のあと、専務理事より会務報告、友の会活動、経営結果等の報告が行われ、出席理事全員が報告及び協議事項について了承しました。

〈主な内容〉

①拡大常任理事会の会務報告
②健康友の会みみはら代表世話人会議報告
③社保・平和・まちづくりのとりくみの報告
④2018年度決算概要の報告
⑤定例評議員会の議案について
⑥評議員の解任と任命について
⑦協議・確認事項
・無料低額診療の各事業所実績についての報告
・役員改選についての報告

耳原実費診療所創立60周年記念誌

60年のあゆみ

いのち輝け未来へ

その16（最終回）

第5章　前倒産・セラチア菌感染を乗り越えて　1997年～

（前号のつづき）

同仁会の経営再建と医療安全のとりくみの教訓に

前倒産とセラチア菌院内感染という重大な事件を通じて、さまざまな教訓がありますが、最大の力は友の会をはじめとした地域の力でした。

前倒産が明らかになってから、医師をはじめ600人以上で地域訪問に出かけました。そこでは、ずっと耳原を頼ってきたが、しんどい時に「精神的なもの」と言われて他の病院へ移られた方が、「やはり耳原を頼りにしている」と引き出しからくしゃくしゃになった5000円札を出してカンパをしてくれました。ある銀行の支店長は「経営が危なくなったら、本来なら預けているお金を引き出して当たり前なのに、ここではむしろお金を預けてくれる、こんな病院見たことがない」と驚いていました。私たちは「耳原へ行けば何とかなる」「耳原はよりどころ」として、物心両面で支えてくれてきた多くの方々の存在に改めて気づかされました。再建とは経営だけでなく地域の方々や全国の仲間の信頼を再建することだと気づかされました。地域から勇気と希望をもらいました。

また、院内感染の際も、事件当初マスコミが大々的に報道し「院内感染で死亡者をだしたおそろしい病院」という状況となりました。しかし、そんな時も友の会の方や地域の方、各団体の方が、一緒に地域を廻り、頭をさげてくれました。そして「事件は二度と繰り返したらあかんが、耳原病院は患者のことをよく考えてくれる病院」と一軒一軒説明してくれました。

こうした信頼にこたえ、友の会、地域の力に依拠して頑張れるかが今後の試金石です。

前倒産とセラチア菌感染という重大な事件から、同仁会は職員と友の会が力をあわせ、また全国や大阪の民医連、堺の民主勢力、地元の諸団体などの支援をうけ、再建のとりくみを進めてきました。

全日本民医連からの指摘と自己点検した「医療と経営のかい離」「職員と管理部門とのかい離」「地域とのかい離」の3つのかい離の克服と安全・安心の医療活動に努力してきました。

経営的には前倒産後の11年間（1998年～2008年）で、37億円の経常利益をあげ、47億円の借入金を減らしてきました。出資金としてのみみはら協同基金は14億円を超え、自己資本はマイナス27・6％からプラスへと大きく改善をはかってきました。前倒産時にリスケジュールした銀行借り入れは全額返済することができました。

共同組織の活動にも力を注ぎ、支部は4支部から13支部に、会員数は15500世帯から28810世帯へと前進し、地域丸ごと健康づくり、安心して住み続けられるまちづくりめざして活動を展開しています。

まだまだ不十分さもありますが、痛苦の教訓を生かし困難な情勢のもとでも前進をはかってきたといえます。そして、前倒産と再建のとりくみ、セラチア菌感染以降のとりくみと教訓は、総合病院の建替えを含む、今後の同仁会の前進につながるものです。（おわり）

※発行当時の原文のまま掲載。

（次号からは新連載が始まります。）